

Kumamoto Education Weekの取組

～みんなの夢が未来を創る～

1 はじめに

熊本市では、平成28年(2016年)3月に教育、文化及びスポーツの振興に関する総合的な目標や施策の根本となる指針として、熊本市教育振興基本計画を策定した。

第3期となる新たな基本計画は、「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」という基本理念を掲げており、Kumamoto Education Weekは、この基本理念を市民に共有、促進できるよう、学校と社会が連動して、「自らが幸福を実感できる人生」、「全ての人々が幸福を実感できる社会」を実現するための教育について、多様な社会の参加者と共に考え行動する契機とし、世界の教育振興に貢献するための教育イベントである。今回は、これまでの取組と今年度の取組について紹介したい。

2 Kumamoto Education Week 開催の背景

基本理念を具現化するには、地域、家庭、学校だけでなく、企業、大学、県教育委員会や国の機関といった公的機関、フリースクールやオルタナティブスクール、各教科の自主的な研究会・勉強会等が核となり、子どもに関わる全ての人々が、連携・協働してつながりながら、子育てや教育のレベルアップをしていくという「教育エコシステム」(図1)の構築が必要である。Kumamoto Education Weekは、これらを体現するために開催した。

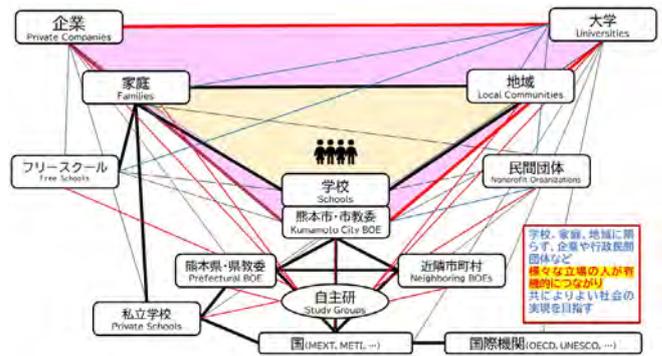


図1「教育エコシステム」イメージ図

3 Kumamoto Education Week について

本イベントは、児童生徒等による様々な探究的な活動の紹介、国内外の学校教育・社会教育の先進的、ユニークな取組の発表、有識者によるパネルディスカッション等を行っている。令和2年度(2020年度)から開始し、昨年度で5回目を迎えた(図2)。個人、社会(コミュニティ)、世界のウェルビーイングの実現を見通し、到達しようとする姿が、「未来を創る」ことにつながっていくものと考え、「みんなの夢が未来を創る」というテーマで取り組んでいる。

開催方法としては、主に対面イベントと動画配信である。動画については、専用ホームページ(<https://kumamoto-ew.jp>)から常時視聴できるようになっている。また、市立小中学校に配備してあるタブレット端末内に、本イベントのアイコンを表示しており、いつでも視聴可能な状態にしている。



図2 デジタルチラシ表紙

また、教育エコシステムの構築を体現するため、参加の対象者は市内外問わず、すべての人々にしている。そのため、様々な人々が気軽に参加していただけるように、参加費を無料にしている。なお、本イベントの開催にあたり、ふるさと納税などを活用して、個人や企業の寄付を募っており、例年、多様な方々の支援を得て、本イベントを運営している。

4 Kumamoto Education Week2025

令和6年度(2024年度)は、令和7年(2025年)1月13日(月・祝)から19日(日)の7日間にわたり開催した。オープニングで教育長が、「Kumamoto Education Weekは、東京に行かずとも、先進的な教育の研修やシンポジウムに参加できる環境をつくり、熊本に来ないと得られない体験や熊本にいるからこそできる教育のイベントを開催し、熊本から全国、世界に発信する目的があった。今回5回目にして、本来の趣旨に沿った形で実施できた。」と挨拶した。

今年度は、対面イベント、動画配信、ライブ配信あわせて、90以上のプログラムを実施した。今年度の主な取組は以下の通りである。

(1) スピンオフ企画

本イベントの認知拡大のために、本年度から新たに、開催期間前にスピンオフ企画を行った。

①心のバリアフリー講演会

北海道在住で、先天性の視覚障害者である杉本梢さんを招き、障がいのある人もない人も、分け隔てなく、お互いに人格や個性を尊重し合いながら共に生きる社会の実現についての講演及び体験会(図3)を実施した。参加したこどもからは、「『困ったことはありませんか。』という言葉は、障がいのある人でなくても使えると思った。友だちにも使っていきたい。」という意見もあり、共に生きていくために必要なことを学ぶ機会となった。



図3 講演会の様子

②「公民館を再発明する」読書会

著者である東京大学大学院牧野篤教授(当時)と熊本大学大学院田中尚人准教授、北九州大学矢ヶ井那津特任教員、水俣市愛林館の沢畑亨館長を登壇者として、『公民館を再発明する』(2023 東京大学出版会)の読書会を開催した。登壇者だけでなく、参加者も発言することで、学校教育や社会教育に必要なことは、対話であることを改めて感じる時間になった。

①②の他にも、暮らしやすさを追求し民主主義を学ぶボードゲームや防災カードゲームの体験会、人権に関する講演会を開催した。

(2) 対面イベントについて

期間中は、公共施設だけでなく、高校や大学、書店やショッピングモールなどを会場にして、毎日様々な場所で開催した。

①オープニングイベント

メイン会場では、熊本市の青少年交流事業を機に集まった高校生6名が司会を務め、オープニングセレモニーを行った。

オープニングセッションでは、1型糖尿病を抱えながら、第1線として活躍された元プロ野球選手の岩田稔さんとエアロビック元日本代表の大村詠一さんが登壇した。自身の半生や経験を振り返り、1型糖尿病と戦いながら夢に挑んできた苦悩や努力、そして逆境を乗り越えたセルフマネジメントの方法などについて、話していただいた。

(<https://youtu.be/N0ezBGvvy78>)

②教職員対象のイベント

ア. 講演会

本イベントは、有識者によるスペシャルトークセッションが恒例の企画となっている。今回は、「こどもの権利」について考えた。経済産業省吉田直樹企画官からは、「未来の教室」プロジェクトの説明、日本大学末富芳教授からは、諸外国のこどもの権利について、学習院大学秋田喜代美教授は学習指導要領にこどもの権利をどのように取り入れていくかについて語っていただき、こどもの時から自他の権利を知り、守り合うことは、周りを大切にすることや自分の幸せを見つけることにつながることを確認することができた。

また、文部科学省の武藤久慶初等中等教育局教育課程課長が登壇し、社会の現状や次期学習指導要領を見据えた現在の学校に求められる役割についての解説があった。参加者同士のディスカッションや質疑応答もあり、参加した教育関係者からは、これからの学校教育を充実させる良

い機会になったという声があがっていた。

そして、水野達朗大阪府教育長と久保田智子姫路市教育長、遠藤洋路熊本市教育長の三者で、鼎談を開催した。教育長に就任してから感じたことや組織をまとめていくために必要なことなど、リーダーシップとは何かを参加者と一緒に考えることができた。

イ. 読書会

1月15日(水)に『まんがで知るデジタルの学び』(2024 さくら社)の著者である、熊本大学前田康裕特任教授による読書会を開催した(図4)。読書会を通して、今の教育について見つめ直す機会となった。



図4 読書会の様子

また、1月18日(土)には、東京書籍の小学校国語の教科書に採用されている『模型のまち』の作者である中澤晶子さんを招いて、ブックトークと平和についての講演会を開催した。多くの教職員の参加があり、研修後は、平和について一人ひとりがそれぞれの立場から自分にできることに取り組んでいこうとする思いが高まった。

ウ. 教職員対象の実技講習会

1月17日(金)に、一般財団法人熊本市文化スポーツ財団と熊本市小学校体育研究会とのコラボ企画として、財団職員が講師となって、マット運動の実技講習会を開催した(図5)。また、1月18日(土)に、武蔵野音楽大学北原幸男教授から、合唱部や器楽部を担当している先生を対象にした指揮法のレッスンを受けた。実技講習会は、悩みの共有や指導方法を紹介するなど、新たなコミュニティができる良い機会になった。



図5 実技講習会の様子

③子ども対象のイベント

1月18日(土)・19日(日)に「中高生あつまれ!みんなの教室」を開催した。これは、中高生と大学との交流の場を提供することにより、こどもが安心して過ごすことができ、自己肯定感や自己有用感を高めることを目的としている。参加者は、ボランティアの大学生スタッフから受験勉強を教えてもらったり、参加者同士でカードゲームを行ったりと各々が楽しく活動していた。19日(日)は地元のイラストレーターを招き、みんなの教室のシンボルとなるフラグを作成した。シンボルフラグは、開催する度に会場で掲示し、自由に色を塗ったり描き加えたりできるようにした。(図6)



図6 シンボルフラグ

④高校生がイベントを企画・運営する

熊本市立必由館高校をメイン会場とした最後の2日間では、企画を聞きつけた生徒から、様々なアイデアが持ち込まれた。「童歌を今後どのように伝承していくか」や「音楽の仕事をどう生み出すか」など、音楽で探究している生徒が集まり、探究の成果等をポスターセッションやプレゼン、体験交流の場で発表した(図7)。また、こどもをテーマに探究するグループは、自ら選んだ本を市街地中心部にある書店の特設ブースに設置できるようにお願いし、期間中には書店に出向き、来店者へ本の紹介を行った。それらは、すべて生徒が運営し、それぞれ多くの来場者の興味をひいていた。

さらに、ボランティアスタッフを志願した生徒は、会場設営や受付等の運営に携わり、各所で高校生が笑顔で対応したことで、来場者から好評を得ていた。



図7 高校生の発表

(3) 動画配信について

①教育委員会事務局の各課が企画

本イベントでは、事務局の各課が企画したアイデアの動画を制作し、配信している。配信に向けては、5月から企画運営会議を実施し、撮影や編集に関しては、運営委員が中心となって行った。

ア.「未来を拓く学校×防災★★ 3.11に学ぶ防災教育★★」

東日本大震災の被災地を訪問し、防災について学ばれ

た3名の先生方と宮城教育大学武田真一特任教授、いのちをつなぐ未来館職員の川崎杏樹さんが、東日本大震災の教訓を学校安全にどう活かすかについて、オンラインで対談した。<https://youtu.be/B9TfdIR4Kd8> イ。「みらいを創るインクルーシブな教室を描こう!~インクルーシブな学級・授業づくりを目指して~」

インクルーシブな学級・授業づくりとは何なのか、また、インクルーシブな学校のあり方について熊本大学大学院教育学研究科菊池鉄平教授と星槎大学阿部利彦教授をファシリテーターとして、インクルーシブ教育に対する理解を広げていった。

<https://youtu.be/47ku7EA72Rw>

このほかにも、市内各中学校の代表生徒が参加することも議会に向けて、事前の熟議や本会議の様子を動画で公開したほか、不登校児童生徒支援事業の紹介や、本市初の義務教育学校となる校区の中学校と小学校が他県の義務教育学校と意見交換する様子、博物館の参加・体験型イベントの紹介、学生学校教育活動アシスタントから新規採用になった先生へのインタビュー、こどもたちが熊本市のこども政策について意見を述べる様子等が配信された。

②公立公民館の事業紹介

本市の公立公民館には教育委員会から任命された教職員が社会教育主事となって配属されている。これは、全国的に珍しい。社会教育主事の取組をより多くの人々に認知してもらうために、講座や家庭教育学級、学校への授業支援等、公民館の取組を紹介する動画を公開した。

③「つながりを科学する」~ゆるやかなつながりが地域イノベーション・DXを創発する~

「地域コミュニティブランド (SCB) 理論」を提唱している崇城大学星合隆成教授と教育改革を推進している高島峻輔芦屋市長が、『ちよどの学び』をキーワードに、教育にイノベーションを起こすための具体的な方策や産学官民が連携し、持続可能で創造的な教育の未来を構築するためのヒントについて考えていく対談を行った。https://youtu.be/-V_Z090VMzE

④鼎談「熊本市立高校が目指す新しい学び~高校改革の成果とこれからの挑戦~」

熊本市立高校の学校改革は、生徒主体の学びや地域連携型教育など、未来志向の取り組みで注目されている。これまでの成果や課題を振り返りながら、東京大学大学院鈴木寛教授と市立学校校長2名が、共に探究の在り方など今後の方向性を模索した。

https://youtu.be/zLEii_nc888

5 おわりに

5回目となった今回は、コロナ禍を経たこと、賛同していただく団体や企業が増えたことで、多様な対面イベントを市内外の皆様に提供でき、過去最大規模のイベントになった。期間中は、延べ1万人が対面イベントへの参加や動画を視聴するなどした。

また、オープニングセッションに参加した方がイベントの内容に関心をもち、その後の対面イベントに毎日参加したり、講演の参加者が登壇者をお願いをし、他市で類似のイベントを開催したりと教育エコシステムの広がりがみられつつある。

課題としては、イベントの認知拡大が挙げられる。市内外から参加者を募るために、様々な媒体などを活用し、さらなる広報活動が必要である。また、多様なニーズにこたえるためには、運営資金の安定的な確保が必要となっており、プログラムを充実させ、本イベントへの理解、協力についてお願いをしまいたい。今後も教育エコシステムを体現できるよう、多様な教育の担い手を発掘し、様々な人々と連携・協働しながら取り組んでいきたい。